

リリースノート (10.5.1)
2021 年 9 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2021

サポートの変更.....	2
テクニカルプレビュー.....	2
サポートの終了.....	3
廃止.....	3
インストールおよびアップグレード.....	4
インストールおよびアップグレード.....	4
アップグレードパス.....	4
Azure での Libidn インストールエラー.....	6
サイレントモードでの Enterprise Data Preparation サービスと Enterprise Data Catalog サービスの問題.....	6
デプロイメントマネージャ.....	6
HotFix のインストールおよびロールバック.....	7
HotFix を適用またはロールバックする前に.....	7
グラフィカルモードでの HotFix サービスの適用またはロールバック.....	8
コンソールモードでの HotFix サービスの適用またはロールバック.....	9
サイレントモードでの HotFix サービスの適用またはロールバック.....	11
グラフィカルモードでの HotFix クライアントの適用またはロールバック.....	12
サイレントモードでの HotFix クライアントの適用またはロールバック.....	13
SilentInput プロパティのサンプル（サーバー）.....	14
SilentInput プロパティのサンプル（クライアント）.....	15
HotFix を適用した後に.....	16
10.5.1 の解消された制限事項と実装された拡張要求.....	18
Business Glossary 修正された問題（10.5.1）.....	18
Data Engineering Integration の修正された問題（10.5.1）.....	18
Data Engineering Streaming で解消された問題（10.5.1）.....	20
Data Engineering Quality の修正された問題（10.5.1）.....	20
Data Privacy Management の修正された問題と実装された拡張要求（10.5.1）.....	20
ドメインの修正された問題と実装された拡張要求（10.5.1）.....	21
Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求（10.5.1）.....	22
Enterprise Data Preparation の修正された問題（10.5.1）.....	26
Informatica Analyst 修正された問題（10.5.1）.....	27

マッピングおよびワークフローの修正された問題 (10.5.1)	27
PowerCenter の修正された問題 (10.5.1)	27
Test Data Management 修正された問題 (10.5.1)	28
サードパーティ製品の修正済みの問題 (10.5.1)	28
トランスフォーメーションに関する修正された問題 (10.5.1)	29
10.5.1 の既知の制限事項.....	29
アプリケーションサービスの既知の問題 (10.5.1)	29
Data Engineering Integration の既知の問題 (10.5.1)	30
Data Engineering Streaming の既知の問題 (10.5.1)	30
Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5.1)	31
PowerCenter の既知の問題 (10.5.1)	34
参照データ既知の問題 (10.5.1)	34
サードパーティ製品に関する既知の問題 (10.5.1)	35
累積的な既知の問題.....	35
Data Engineering Integration の既知の問題 (累積)	35
Data Engineering Streaming の既知の問題 (累積)	36
Data Privacy Management の既知の制限事項 (累積)	37
Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (累積)	38
マッピングおよびワークフローの既知の制限事項 (累積)	41
プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項 (累積)	42
サードパーティ製品に関する既知の問題 (累積)	42
10.5.1 に統合された緊急バグ修正.....	43
Informatica グローバルカスタマサポート.....	43

Informatica(R) リリースノートで、バージョン 10.5.1 に関連する既知の制限事項および解消された制限事項をご確認ください。このリリースノートには、アップグレードパス、EBF、およびテクニカルプレビューや保留事項など限定サポートに関する情報も記載されています。

サポートの変更

この節では、バージョン 10.5.1 のサポートの変更点について説明します。

テクニカルプレビュー

バージョン 10.5.1 で開始または除去されたテクニカルプレビュー機能について確認するには、このセクションを参照してください。

テクニカルプレビューが昇格

バージョン 10.5.1 では、次の機能がテクニカルプレビューから除去されています。

データフロー分析

Data Flow Analytics を使用して、カタログ内の PowerCenter マッピングに関する分析データを表示できます。このデータを使用して、企業のマッピングの品質と効率を向上させることができます。理解しやすくするために、マッピングを図として表示することもできます。

分析データには、次のマッピングメトリックに関する詳細が含まれます。

- 類似するマッピング
- 重複するマッピング
- 複合式用の再利用可能なマプレット、トランスフォーメーション、およびユーザー関数

さらに、このデータには、マッピンググループの詳細とマッピング検出の詳細も含まれており、マッピングデータから追加の洞察を得ることができます。分析データをレポートとしてダウンロードしてさらに詳しく分析したり、サードパーティのレポートソリューションを使用してレポートを拡張したりすることができます。

詳細については、『*Enterprise Data Catalog 10.5.1 ユーザーガイド*』を参照してください。

サポートの終了

バージョン 10.5.1 で、Data Privacy Management は Cloudera Sentry および Hortonworks Ranger 保護拡張機能のサポートを終了しました。拡張機能を作成または使用して機密データを保護することはできません。

保護拡張機能を使用して機密データを保護する方法については、Informatica Data Privacy Management ユーザーガイドを参照してください。

サポートの終了の詳細については、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。」

廃止

バージョン 10.5.1 では、次の機能は廃止されました。

廃止された機能はサポートされていますが、今後のリリースではサポートも廃止される予定です。この機能が廃止される前に、別の機能に移行するようお願いいたします。

Enterprise Data Catalog

10.5.1 以降、次のリソースは廃止されました。

- IBM InfoSphere DataStage
- Oracle Data Integrator

廃止された機能はサポートされていますが、今後のリリースではサポートも廃止される予定です。この機能が廃止される前に、別の機能に移行するようお願いいたします。

Informatica は、リソースのサポートが終了する前に、詳細スキャナツールでこれらのソースの詳細スキャナを構成することをお勧めします。詳細スキャナを作成するときに、埋め込まれた手続き型呼び出しや追加の系統の詳細なリネージュなどの追加機能を構成できます。

インストールおよびアップグレード

バージョン 10.5.1 でのインストールとアップグレードについては、この節を確認してください。

インストールおよびアップグレード

Informatica バージョン 10.5.1 は HotFix リリースです。HotFix を 10.5.0 に適用するか、サポートされているリリースからアップグレードすることができます。インストーラを実行するマシンに 10.5.1 製品インストールバイナリが存在しない場合は、Informatica インストーラを実行してインストールできます。

Informatica バージョン 10.5.1 は、統合インストーラの一部として、PowerCenter、Informatica Data Quality、Data Engineering 製品、Catalog 製品、Data Privacy Management、および Test Data Management 製品をサポートします。Test Data Management と Data Privacy を使用するには、HotFix の適用に加えて、サービスのアップグレードが必要です。

HotFix の手順は同じですが、Data Engineering 製品、Data Quality、および PowerCenter 以外の製品では、前提条件と事後要件が異なります。詳細については、それぞれの製品のアップグレードガイドを参照してください。

アップグレードパス

実行するアップグレードパスは、アップグレードする製品に応じて異なります。直接アップグレードをサポートしていないバージョンを使用している場合は、サポートされるバージョンに先にアップグレードしておく必要があります。

次の表に、インストーラでサポートされる各製品のアップグレードパスを示します。

製品	バージョン
PowerCenter	HotFix とサービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">- 10.1.1- 10.2- 10.4- 10.4.1- 10.5* *バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。
Informatica Data Quality	HotFix とサービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。 <ul style="list-style-type: none">- 10.1.1- 10.2- 10.4- 10.4.1- 10.5* *バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。

製品	バージョン
Data Engineering Integration Data Engineering Quality	<p>HotFix とサービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10.1.1 - 10.2 - 10.2.1 - 10.2.2 - 10.4 - 10.4.1 - 10.5* <p>*バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。</p> <p>重要: Informatica インストーラでサポートされている他の製品と同じドメインに Data Engineering がある場合は、10.5.1 にアップグレードする前に、すべての製品がサポートされる同じアップグレードバージョンにアップグレードされていることを確認してください。</p>
Data Engineering Streaming	<p>HotFix とサービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10.2.2 - 10.4 - 10.4.1 - 10.5* <p>*バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。</p>
Data Privacy Management	<p>HotFix とサービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10.4.1 - 10.5* <p>*バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。</p> <p>重要: Data Engineering、Enterprise Data Catalog、および Data Privacy Management が 10.4.1 より前のバージョンの同じドメインに存在する場合は、すべての製品をバージョン 10.4.1 にアップグレードしてから 10.5.1 にアップグレードしてください。</p>
Enterprise Data Catalog	<p>サービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10.4 - 10.4.1 - 10.5* <p>*バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。</p> <p>重要: Enterprise Data Catalog と Data Engineering が 10.4 より前のバージョンの同じドメインにある場合は、10.5.1 にアップグレードする前に、それらをバージョン 10.4 または 10.4.1 にアップグレードしてください。</p>
Enterprise Data Preparation	<p>サービスパックを含む次のバージョンからバージョン 10.5.1 にアップグレードできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 10.4 - 10.4.1 - 10.5* <p>*バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用します。</p> <p>重要: Data Engineering、Enterprise Data Catalog、および Enterprise Data Preparation が 10.4 より前のバージョンの同じドメインにある場合は、10.5.1 にアップグレードする前に、それらをすべてバージョン 10.4 または 10.4.1 にアップグレードしてください。</p>
Test Data Management	<p>バージョン 10.5 からアップグレードするには、10.5.1 HotFix を適用できます。</p>

Azure での Libidn インストールエラー

RHEL8 上の Azure で、Informatica のインストールが失敗し、次のエラーが発生します:

```
<Install_Path>/server/bin/libpmjrepn.so: libidn.so.11: 共有オブジェクトファイルを開くことができません: そのようなファイルやディレクトリはありません。]
```

インストーラを実行する前に、Linux 管理者と協力して、Informatica インストールを実行するマシンに libidn11 パッケージをインストールしてください。

(PLAT-29050)

サイレントモードでの Enterprise Data Preparation サービスと Enterprise Data Catalog サービスの問題

既存のドメインにサイレントモードで Enterprise Data Catalog サービスと Enterprise Data Preparation サービスを作成しようとすると、Informatica クラスタサービスの作成後にインストーラが終了する。ステータスが成功としてマークされていても、Enterprise Data Preparation サービスや Enterprise Data Catalog サービスなど残りのサービスは作成されない。

この問題が発生した場合は、Administrator ツールで残りのサービスを作成してください。

(BDM-38726)

デプロイメントマネージャ

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
PLAT-29036	Informatica デプロイメントマネージャを使用して、CentOS バージョン 8.x または RHEL バージョン 8.x でビルドされた Docker イメージから Enterprise Data Catalog または Data Quality をデプロイする場合、コンテンツ管理サービスのデータドメインがインポートされない。 回避策: CentOS バージョン 8.x および RHEL バージョン 8.x 以外のサポートされているオペレーティングシステムを使用して、Docker イメージをビルドします。
PLAT-28993	Administrator ツールにカスタムキーストアファイルを使用し、ドメインにカスタム SSL 証明書を使用している場合、デフォルトの Informatica SSL 証明書を使用してアプリケーションサービスを設定するオプションが表示される。デフォルトの SSL 証明書を使用するようにサービスを設定すると、製品のデプロイ中にサービスの作成が失敗する。 回避策: Administrator ツールとドメインに使用したものと同一カスタム SSL 証明書を使用するようにアプリケーションサービスを設定します。
EIC-57442	RHEL 8.4 イメージを使用して Informatica デプロイメントマネージャで Docker イメージをビルドすると、プロセスは次のエラーで失敗する: エラー: 一致が見つかりません: csh traceroute telnet openssh-server kernel-devel libtirpc-devel。 回避策: RHEL バージョン 8.x 以外のサポートされているオペレーティングシステムを使用して、Docker イメージをビルドします。

問題	説明
EIC-57423	Informatica デプロイメントマネージャを使用して、マルチノードカスタム SSL セットアップで Docker イメージから Enterprise Data Catalog を実行すると、インスタンスが次のエラーで失敗する: [main] 原因: com.informatica.pcsf.sslutils.HttpSSLException: [SSLUtil_0001] 内部エラー。次の SSL エラーが原因でセキュアな接続に失敗しました: /data1/Infra/VolDir/infra_truststore.jks (そのようなファイルやディレクトリはありません)。Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
EIC-57091	クイックデプロイメントを使用してイメージ機能を実行し、Docker に Enterprise Data Catalog をデプロイする場合、Informatica デプロイメントマネージャは最小ディスク容量要件を検証しない。

HotFix のインストールおよびロールバック

Informatica 10.5.1 は、バージョン 10.5 に適用する HotFix リリースです。この HotFix を適用すると、インストーラによって既存のディレクトリがバックアップされ、製品の新しいバージョンの適用と必要な構成ファイルおよびランタイムファイルのリストアまたは更新が実行されます。

次の手順は、PowerCenter、Data Quality、および Data Engineering 製品に適用されます。他の製品の HotFix を適用またはロールバックするには、それぞれのアップグレードガイドを参照してください。

Informatica では、Informatica サービスおよびクライアントに HotFix を適用するためのインストーラを提供しています。

PowerCenter または Data Engineering Integration インストーラで Informatica HotFix を適用またはロールバックするには、次の手順を実行します。

1. 準備作業を完了します。HotFix を適用またはロールバックする前に、ドメインをシャットダウンしてください。マルチノード構成の場合は、すべてのノードをシャットダウンする必要があります。
2. グラフィカルモード、コンソールモード、またはサイレントモードで HotFix を Informatica サービスに適用するかロールバックします。
3. Informatica サービスの最終タスクを完了します。サーバーコンポーネントをインストールした後に、ゲートウェイノードでドメインを起動します。
4. ホットフィックスを、グラフィカルモードまたはサイレントモードで Informatica クライアントに適用します。ホットフィックスを Informatica Developer に適用している場合は、Informatica クライアントのホットフィックスのバージョンが、Informatica サービスのホットフィックスのバージョンと一致することを確認してください。

注: Informatica クライアントのホットフィックスバージョンが Informatica サービスのホットフィックスに一致しない場合、Informatica Developer はドメインに接続できません。

HotFix をロールバックする場合、Informatica のバージョンが、以前にインストールされたバージョンにリストアされます。

HotFix を適用またはロールバックする前に

HotFix を適用またはロールバックする前に、アップグレード前のタスクを完了します。

1. 使用しているプラットフォーム用のホットフィックスパッケージをダウンロードします。

2. ZIP 形式または TAR 形式のホットフィックスパッケージの内容を解凍します。

注: Windows では、.zip ファイル名を含めたインストールパスの長さが 60 文字以下でなければなりません。UNIX では、ネイティブの tar または GNU tar コマンドを使用してインストーラファイルを抽出します。インストーラを実行するユーザーには、インストーラファイルのあるディレクトリの読み取り/書き込みアクセス権と install.sh の実行アクセス権を与えられている必要があります。

3. コマンドプロンプトとコマンドラインプログラムを含む、インストールディレクトリとサブディレクトリにアクセスするすべてのプロセスを停止します。
4. ホットフィックスを適用またはロールバックするすべてのマシンで Informatica クライアントを閉じます。
5. Informatica ディレクトリおよびサブディレクトリを閉じます。
6. ホットフィックスを適用する場合は、リポジトリおよびウェアハウスファイルをバックアップします。Administrator ツールから必要なリポジトリをバックアップしてください。ホットフィックスをロールバックするときにこれらのファイルが必要です。環境内の次のデータベースとファイルをバックアップします。
 - PowerCenter リポジトリ
 - モデルリポジトリ
 - Metadata Manager imm.properties ファイル
 - Metadata Manager ウェアハウス
 - Data Transformation ServiceDB ディレクトリ
7. ドメインのすべてのノード上の Informatica サービスを停止します。
8. ホットフィックスを適用中でマシンが Informatica Administrator への接続に HTTPS を使用する場合は、キーストアファイルがデフォルトの場所にあり、デフォルトのファイル名を使用していることを確認します。キーストアファイルのデフォルトの場所は<Informatica installation directory>/tomcat/conf です。キーストアファイルのデフォルトのファイル名は Default.keystore です。

グラフィカルモードでの HotFix サービスの適用またはロールバック

グラフィカルモードで HotFix を適用すると、コンソールウィンドウが開き、バックグラウンドで実行されます。このウィンドウを閉じると、インストールが停止します。

1. システムユーザーアカウントを使用してマシンにログインします。ユーザーアカウントは、以前のバージョンの Informatica サービスのインストールに使用したのと同じアカウントである必要があります。
2. 他のすべてのアプリケーションを終了します。
3. Windows でインストールを開始するには、HotFix パッケージを解凍または展開したルートディレクトリから、管理者として install.bat を実行します。管理者としてファイルを実行するには、install.bat を右クリックし、**[管理者として実行]** を選択します。
4. Informatica 10.5.1 ページで、**[Informatica 10.5 に HotFix を適用するか HotFix をロールバックする]** を選択してから、**[開始]** をクリックします。
[インストールタイプ] ページが表示されます。
5. HotFix の適用またはロールバックを選択します。

- Hotfix を適用する場合は、**[Hotfix の適用]** を選択します。
 - Hotfix をロールバックする場合は、**[Hotfix のロールバック]** をクリックします。
6. Informatica 製品使用状況ツールキットの利用規約をお読みになったら **[契約条項に同意します]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 以下のオプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーにおいてサービスの一部と見なされ、Informatica は、<https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html> のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。Administrator ツールで使用量コレクションを無効にできます。
- [インストールの前提条件]** ページが表示されます。
7. Hotfix を適用またはロールバックする前にすべての要件を満たしていることを確認し、**[次へ]** をクリックします。
- [インストールディレクトリ]** ページが表示されます。
8. Informatica サービスの現在のバージョンがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力し、インストール環境を指定して、**[次へ]** をクリックします。
- [インストール前のサマリ]** ページが表示されます。
9. インストール情報を確認してから **[インストール]** をクリックし、HotFix を適用またはロールバックします。
- HotFix を適用すると、インストーラによって Informatica のファイルがインストールディレクトリにコピーされます。HotFix をロールバックすると、インストーラによって HotFix が削除され、Informatica が以前のバージョンにリストアされます。
10. インストール後のタスクを完了します。ログファイルまたは **[インストール後のサマリ]** ページを確認して、HotFix またはロールバックが正常に完了したことを確認します。

コンソールモードでの HotFix サービスの適用またはロールバック

コンソールモードで HotFix を適用する場合、Help、Quit、および Back という単語は予約語です。これらの単語を入力テキストで使用しないでください。

1. システムユーザーアカウントを使用してマシンにログインします。以前のバージョンの Informatica サービスまたはクライアントのインストールに使用したユーザーアカウントと同じアカウントを使用する必要があります。
2. 他のすべてのアプリケーションを終了します。
3. シェルコマンドラインで、ルートディレクトリにある install.sh ファイルを実行します。
ロケール環境変数が設定されていることを確認するためのメッセージが表示されます。
4. 環境変数が設定されていることを確認します。
 - 環境変数が設定されていない場合は、「N」と入力してインストーラを終了し、環境変数を適宜設定します。
 - 環境変数が設定されている場合は、「Y」と入力して続行します。
5. HotFix を Informatica 10.5 に適用するか、HotFix をロールバックするオプションを入力します。

6. HotFix の適用またはロールバックを選択します。
 - ホットフィックスを適用するには、「1」と入力します。
 - ホットフィックスをロールバックするには、「2」と入力します。
7. Informatica のインストールおよび製品使用ツールキットの利用規約をお読みになったら **【契約条項に同意します】** を選択します。

以下のオプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーにおいてサービスの一部と見なされ、Informatica は、<https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html> のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。Administrator ツールで使用量コレクションを無効にできます。

 - **1** を押して終了します。
 - **2** を押して続行します。
8. Hotfix の適用またはロールバックを続行する前に、すべてのインストール要件が満たされていることを確認します。
9. **Enter** キーを押します。
10. Informatica サービスの現在のバージョンがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力します。または、Enter キーを押してデフォルトのディレクトリを使用します。

パスのディレクトリ名には、スペースまたは次の特殊文字を含めることはできません: @|* \$ # ! % () { } [] , ; ' "
11. HotFix を適用する場合は、Informatica サービスのインストールに関連付けられている環境タイプを指定します。
 - 最小限のユーザーしかいない概念実証用の基本環境の場合は、**1** を押して[Sandbox]環境に設定します。
 - 設計環境の場合は、**2** を押して[Development]環境に設定します。
 - プロダクション環境に最も近い大量処理の場合は、**3** を押して[Test]環境に設定します。
 - エンドユーザー向けの高レベルの並列処理を行う大量処理の場合は、**4** を押して[Production]環境に設定します。拡張プロダクション環境は一般的にマルチノードのセットアップです。

デフォルトは 1 の[Sandbox]です。
12. **Enter** キーを押します。
13. インストール情報を確認し、**Enter** キーを押してホットフィックスを適用またはロールバックします。

HotFix を適用すると、インストーラによって Informatica のファイルがインストールディレクトリにコピーされます。HotFix をロールバックすると、インストーラによって HotFix が削除され、Informatica が以前のバージョンにリストアされます。
14. インストール後のタスクを完了します。ログファイルまたは **【インストール後のサマリ】** ページを確認して、HotFix またはロールバックが正常に完了したことを確認します。

サイレントモードでの HotFix サービスの適用またはロールバック

サイレントモードで HotFix を適用するには、`SilentInput.properties` ファイルを作成し、このファイルを指定してインストーラを実行します。

Informatica では、インストーラで必要となるパラメータを含むサンプルのプロパティファイル (`SilentInput_hotFix.properties`) を提供しています。

プロパティファイルは、Informatica サービスの HotFix 用もクライアントの HotFix 用も同じです。

1. インストールファイルを含むディレクトリのルートに移動します。
2. `SilentInput_HotFix.properties` ファイルの場所を確認します。
3. 変更する前に、そのファイルをバックアップします。
4. テキストエディタを使用してファイルを開き、値を変更します。以下の表に変更可能なインストールプロパティを示します。

プロパティ名	説明
INSTALL_TYPE	HotFix を適用するかロールバックするかを指定します。値が 0 の場合、現在の Informatica インストールに HotFix が適用されます。値が 1 の場合、インストーラによって現在の HotFix がロールバックされます。
USER_INSTALL_DIR	HotFix を適用またはロールバックする Informatica インストールのディレクトリ。 Informatica サービスに HotFix を適用するには、現在のバージョンの Informatica サービスがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力します。 HotFix をロールバックするには、現在のバージョンの Informatica サービスまたはクライアントがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力します。
ENABLE_USAGE_COLLECTION	本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーにおいてサービスの一部と見なされ、Informatica は、 https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。Administrator ツールで使用量コレクションを無効にできます。使用統計値の送信を無効にする方法の詳細については、『 <i>Informatica Administrator ガイド</i> 』を参照してください。 HotFix を適用するには、値を「1」に設定する必要があります。
INSTALLATION_ENVIRONMENT	HotFix を適用する場合は、Informatica サービスのインストールに関連付けられている環境タイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none">• 最小限のユーザーしかいない概念実証用の基本環境の場合は、1 を押して[Sandbox]環境に設定します。• 設計環境の場合は、2 を押して[Development]環境に設定します。• プロダクション環境に最も近い大量処理の場合は、3 を押して[Test]環境に設定します。• エンドユーザー向けの高レベルの並列処理を行う大量処理の場合は、4 を押して[Production]環境に設定します。拡張プロダクション環境は一般的にマルチノードのセットアップです。 デフォルトは 1 の [Sandbox] です。

5. プロパティファイルを「SilentInput.properties」という名前で保存します。
 6. コマンドウィンドウを開きます。
 7. サーバーのルートまたはクライアントのインストーラディレクトリに移動します。
 8. 編集して保存した SilentInput.properties ファイルがディレクトリに含まれることを確認します。
 9. Windows、UNIX、または Linux からインストールを開始します。
 - Windows で Hotfix を適用またはロールバックするには、silentInstallHotFix.bat を管理者として実行します。管理者としてファイルを実行するには、ファイルを右クリックし、**【管理者として実行】**を選択します。
 - UNIX または Linux で HotFix を適用またはロールバックするには、silentInstallHotFix.sh をダブルクリックします。
- HotFix を適用すると、インストーラによって Informatica のファイルがインストールディレクトリにコピーされます。HotFix をロールバックすると、インストーラは最後の HotFix を削除し、前のバージョンの Informatica をリストアします。
10. インストール後のタスクを完了します。ログファイルまたは **【インストール後のサマリ】** ページを確認して、HotFix またはロールバックが正常に完了したことを確認します。

グラフィカルモードでの HotFix クライアントの適用またはロールバック

グラフィカルモードでインストーラを実行すると、コンソールウィンドウが開き、バックグラウンドで実行されます。このウィンドウを閉じると、インストールが停止します。

1. システムユーザーアカウントを使用してマシンにログインします。ユーザーアカウントは、以前のバージョンの Informatica サービスのインストールに使用したのと同じアカウントである必要があります。
2. 他のすべてのアプリケーションを終了します。
3. Windows でインストールを開始するには、HotFix のインストールパッケージを解凍または展開したルートディレクトリから install.bat を実行します。
4. Informatica 10.5.1 ページで、**【Informatica 10.5 に HotFix を適用するか HotFix をロールバックする】**を選択してから、**【開始】**をクリックします。
【インストールタイプ】 ページが表示されます。
5. Hotfix を適用するかインストールをロールバックするかを選択します。
 - Hotfix を適用する場合は、**【Hotfix の適用】**を選択します。
 - Hotfix をロールバックする場合は、**【Hotfix のロールバック】**をクリックします。
6. Informatica 製品使用状況ツールキットの利用規約をお読みになったら **【契約条項に同意します】**を選択し、**【次へ】**をクリックします。

以下のオプトアウトの権利の制限の下、本ソフトウェアによって、本ソフトウェアがデプロイされているコンピューティングおよびネットワーク環境に関する情報、デプロイメントのデータ使用状況およびシステム統計情報が米国の Informatica に自動的に送信されます。この送信は Informatica のプライバシーポリシーにおいてサービスの一部と見なされ、Informatica は、
<https://www.informatica.com/in/privacy-policy.html> のプライバシーポリシーに従って、この情報を使用または処理します。Administrator ツールで使用量コレクションを無効にできます。

【インストールの前提条件】 ページが表示されます。

7. HotFix の適用またはロールバックを続行する前に前提条件を満たしていることを確認してから、**【次へ】** をクリックします。
【インストールディレクトリ】 ページが表示されます。
8. Informatica サービスの現在のバージョンがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力し、インストール環境を指定して、**【次へ】** をクリックします。
【インストール前のサマリ】 ページが表示されます。
9. インストール情報を確認してから **【インストール】** をクリックし、HotFix を適用またはロールバックします。
HotFix を適用すると、インストーラによって Informatica のファイルがインストールディレクトリにコピーされます。HotFix をロールバックすると、インストーラによって最新の HotFix が削除され、Informatica が以前のバージョンにリストアされます。
10. インストール後のタスクを完了します。ログファイルまたは **【インストール後のサマリ】** ページを確認して、HotFix またはロールバックが正常に完了したことを確認します。

サイレントモードでの HotFix クライアントの適用またはロールバック

サイレントモードで HotFix を適用するには、SilentInput.properties ファイルを作成し、このファイルを指定してインストーラを実行します。

Informatica では、インストーラで必要となるパラメータを含むサンプルのプロパティファイル (SilentInput_hotFix.properties) を提供しています。以下の例は、ファイルの内容を示します。

1. インストールファイルを含むディレクトリのルートに移動します。
2. SilentInput_HotFix.properties ファイルの場所を確認します。
3. 変更する前に、そのファイルをバックアップします。
4. テキストエディタを使用してファイルを開き、値を変更します。以下の表に変更可能なインストールプロパティを示します。

プロパティ名	説明
INSTALL_TYPE	HotFix を適用するかロールバックするかを指定します。値が 0 の場合、インストーラによって現在の Informatica クライアントインストールに HotFix が適用されます。値が 1 の場合、インストーラによって現在の HotFix がロールバックされます。
USER_INSTALL_DIR	HotFix を適用またはロールバックする Informatica インストールのディレクトリ。 Informatica クライアントに HotFix を適用するには、現在のバージョンの Informatica クライアントがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力します。 HotFix をロールバックするには、現在のバージョンの Informatica クライアントがインストールされているディレクトリの絶対パスを入力します。

5. プロパティファイルを「SilentInput.properties」という名前で保存します。
6. クライアントインストーラディレクトリのルートに移動します。
7. 編集して保存した SilentInput.properties ファイルがディレクトリに含まれることを確認します。

8. Windows で Hotfix を適用またはロールバックするには、silentInstallHotFix.bat をダブルクリックします。

HotFix を適用すると、インストーラによって Informatica のファイルがインストールディレクトリにコピーされます。HotFix をロールバックすると、インストーラは最後の HotFix を削除し、前のバージョンの Informatica をリストアします。

9. インストール後のタスクを完了します。ログファイルまたは【インストール後のサマリ】ページを確認して、HotFix またはロールバックが正常に完了したことを確認します。

SilentInput プロパティのサンプル（サーバー）

次の例は、HotFix をサイレントモードで適用またはロールバックしたときの SilentInput.properties ファイルの内容を示しています。

```
#####
# Informatica Installer Build Details
# Copyright (c) 1993-2021 Informatica LLC
# This software contains confidential and proprietary
# information of Informatica LLC.
# All Rights Reserved.
#####

# Use the following guidelines when editing this file
# * Use this file to install without user interaction.
# * After you create the properties file, save the file with the name SilentInput.properties
# * Any error condition that leads to failure, such as an invalid
# installation directory, generates a log file in the user home directory.
# For example: c:\silentErrorLog<time_stamp>.log

#####

# Set ENABLE_USAGE_COLLECTION to 1 to accept the product usage toolkit end user license agreement.
# You must set the value as 1 to install the Informatica platform.
# The product usage toolkit end user license agreement is available at: http://www.informatica.com/us/eula/en-support-eula.aspx.
# As further described in the EULA, your use of the Informatica platform will enable the product usage
# toolkit
# to collect certain product usage and failure information. You may disable this feature at any time.
# For more information on how to disable this feature refer the Informatica Administrator Guide.

ENABLE_USAGE_COLLECTION=0

## *INSTALL_TYPE - Set this value to '0' to apply the hotfix. Set this value to '1' to roll back the
hotfix.

INSTALL_TYPE=0

# * The USER_INSTALL_DIR variable must point to a valid directory with write
# permissions enabled.

USER_INSTALL_DIR=c:\Informatica\10.5
```



```
#The INSTALLATION_ENVIRONMENT property represents the installation environment
# Set the property to one of the following installation environment types: Sandbox, Development, Test, or
Production. Values are case-sensitive.
# Set to Sandbox for a basic environment used for proof of concept with minimal
users.
# Set to Development for the design environment.
# Set to Test for high volume processing that is closest to a production environment.
# Set to Production for high volume processing with high levels of concurrency meant for end users.
Advanced production environments are typically multi-node setups.
```

```
INSTALLATION_ENVIRONMENT=
```

SilentInput プロパティのサンプル (クライアント)

次の例は、HotFix クライアントをサイレントモードで適用またはロールバックしたときの SilentInput.properties ファイルの内容を示しています。

```
#####
# Informatica Installer Build Details
# Copyright (c) 1993-2021 Informatica LLC
# This software contains confidential and proprietary
# information of Informatica LLC.
# All Rights Reserved.
#####

# Use the following guidelines when editing this file
# * Use this file to install without user interaction.
# * After you create the properties file, save the file with the name SilentInput.properties
# * Any error condition that leads to failure, such as an invalid
# installation directory, generates a log file in the user home directory.
# For example: c:\silentErrorLog<time_stamp>.log

#####

#####
## *INSTALL_TYPE - Set this value to '0' to apply the hotfix. Set this value to '1' to roll back the
hotfix.

INSTALL_TYPE=0

# * The USER_INSTALL_DIR variable must point to a valid directory with write
# permissions enabled.

USER_INSTALL_DIR=c:\Informatica\10.5

#####
# After you create the properties file, save the file with the name SilentInput.properties and
# run the silent installer to perform the Informatica client installation.
#####
```


HotFix を適用した後に

HotFix を適用した後に、10.5.1 製品コンポーネントの最終タスクを完了する必要があります。

Kerberos 化された環境でのメタデータアクセスサービス

Kerberos 化された Informatica ドメインでメタデータアクセスサービスを有効にすることはできません。

Kerberos 化された Hadoop クラスタに接続するように Developer tool を設定してください。

詳細については、ナレッジベースの記事「[000145143](#)」を参照してください。

(PLAT-29033)

SAP トランスポートのダウンロード

SAP BW、SAP BW/4HANA、および SAP S4/HANA スキャナを実行する前に、互換性のあるバージョンの SAP トランスポートをダウンロードして、SAP サーバーにインポートします。このトランスポートは、Informatica のインストールサイトからダウンロードした SAP_Scanner_Binaries.zip ファイルに含まれています。

Python トランスフォーメーションのインストール後の手順

Python トランスフォーメーションを使用するには、10.5.1 の適用後に、Hadoop クラスタのワーカーノードに Python のインストールが含まれていることを確認する必要があります。

注: ディレクトリ<Informatica インストールディレクトリ>/services/shared/spark/python に Python をインストールしている場合は、Python を再インストールする必要があります。

使用する製品に応じて異なるタスクを実行します。

Data Engineering Integration への Python のインストール

マッピングで Python トランスフォーメーションを使用するには、クラスタのワーカーノードに、Python の統一されたインストールが含まれている必要があります。インストールは次のいずれかの方法で、統一されているか確認できます。

Python のインストールが存在することを確認します。

クラスタのすべてのワーカーノードの同じディレクトリ (usr/lib/python など) に Python のインストールが含まれていること、および必要なすべてのモジュールがそれぞれの Python インストールに含まれていることを確認します。

さらに、Python インストールを格納するディレクトリに基づいて Hadoop 接続の次の Spark 詳細プロパティが構成されていることを確認します。

```
infaspark.pythontx.executorEnv.PYTHONHOME
```

Python をインストールします。

すべてのデータ統合サービスマシンに Python をインストールします。Python コードで参照できる特定のモジュールを含む Python のカスタムインストールを作成できます。マッピングを実行すると、Python インストールがクラスタのワーカーノードにプロパゲートされます。

データ統合サービスマシンに Python をインストールする場合は、次のタスクを完了します。

1. Python をインストールします。

2. 必要に応じて、numpy、scikit-learn、cv2 などのサードパーティライブラリをインストールします。Python トランスフォーメーションでサードパーティライブラリにアクセスできます。
3. Python インストールフォルダーをデータ統合サービスマシンの以下の場所にコピーします。

<Informatica installation directory>/services/shared/spark/python

注: データ統合サービスマシンに Python のインストールがすでに含まれている場合は、既存の Python インストールを上記の場所にコピーできます。

変更は、データ統合サービスを再起動した後に反映されます。

Data Engineering Streaming への Python のインストール

ストリーミングマッピングで Python トランスフォーメーションを使用するには、Python および Jep パッケージをインストールする必要があります。Jep をインストールする必要があるため、使用する Python のバージョンは Jep との互換性が必要です。次のいずれかのバージョンの Python を使用できません。

- 2.7
- 3.3
- 3.4
- 3.5
- 3.6

Python および Jep をインストールするには、次のタスクを完了します。

1. **--enable-shared** オプションを使用して Python をインストールして、Jep から共有ライブラリにアクセスできるようにします。
2. Jep をインストールします。Jep をインストールするには、以下のインストールオプションを検討します。
 - pip install jep を実行します。Python が pip パッケージとともにインストールされている場合はこのオプションを使用します。
 - Jep バイナリを設定します。jep.jar に Java クラスローダーからアクセスできること、共有 Jep ライブラリに Java からアクセスできること、および Jep Python ファイルに Python からアクセスできることを確認します。
3. 必要に応じて、numpy、scikit-learn、cv2 などのサードパーティライブラリをインストールします。Python トランスフォーメーションでサードパーティライブラリにアクセスできます。
4. Python インストールフォルダーをデータ統合サービスマシンの以下の場所にコピーします。
<Informatica installation directory>/services/shared/spark/python
注: データ統合サービスマシンに Python のインストールがすでに含まれている場合は、既存の Python インストールを上記の場所にコピーできます。

変更は、データ統合サービスを再起動した後に反映されます。

アップグレードの設定の完了または HotFix の適用

odbc.ini、odbcinst.ini、sapnwrfc.ini、または infaservice.sh ファイルを編集する場合は、バックアップファイルからの変更を最新のインストール済みファイルに手動でマージします。HotFix またはアップグレードを適用する前に、*.ini ファイルをカスタマイズしているかどうかについて管理者に確認してください。例えば、HotFix またはアップグレードを適用する前に、管理者がいくつかの変数または Java オプシ

ョンを infaservice.sh スクリプトに追加した場合は、変更を最新のインストールファイルパスに手動でマージします。

HotFix の適用またはアップグレード後に、最新の構成の変更内容を次のインストールファイルパスに手動でマージします。

- \$INFA_HOME/ODBC7.1/odbc.ini
- \$INFA_HOME/ODBC7.1/odbcinst.ini
- \$INFA_HOME/server/bin/sapnwrfc.ini
- \$INFA_HOME/tomcat/bin/infaservice.sh

Transport Layer Security (TLS) を有効にする

アップグレード後、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1 および 1.1 はデフォルトで無効になります。TLS バージョン 1 および 1.1 を有効にするには、次の手順を実行します。

1. \$INFA_HOME/Java/jre/lib/security/java.security に移動します。
2. java.security 構成ファイルを編集します。
3. java.security 構成ファイル内で、jdk.tls.disabledAlgorithms 設定を見つけます。
4. 無効なアルゴリズムのリストから、TLSv1 と TLSv1.1 を削除します。
5. java.security 構成ファイルを保存して閉じます。
6. ドメインを再起動します。

TLS バージョン 1 および 1.1 が有効になります。

10.5.1 の解消された制限事項と実装された拡張要求

Business Glossary 修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BG-2555	Business Glossary 用語テンプレートで名前プロパティおよび説明プロパティの 【検索可能】 オプションが無効になっている。 【検索可能】 オプションはこれらのプロパティには関係ありません。

Data Engineering Integration の修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-28258	無効な資格情報を使用した Administrator ツールからの SAML ログイン試行が、予期したとおりに失敗した場合でも、ネイティブセキュリティドメインからのログイン試行として表示される。この試行は、空のセキュリティドメインからのログイン試行としてログに表示される必要があります。
OCON-28331	Blaze エンジンが Cloudera CDH バージョン 6.3.4 で Sqoop マッピングを実行すると、次のエラーが発生する: GSSEException: 有効な資格情報が提供されていません(メカニズムレベル: Kerberos ターゲットが見つかりません)
OCON-27886	Spark エンジンが Cloudera CDH バージョン 6.3.4 で Sqoop マッピングを実行して、日付データ型のデータを Greenplum ターゲットに書き込んだ場合、マッピングが次のエラーで失敗する。 org.postgresql.util.PSQLException: ERROR: date out of range: "444001-10-28 BC +05:30"
ISD-2636	Intelligent Structure Discovery が Microsoft Excel ファイルの空白セルを無視する場合がある。
ISD-2537	XSD 入力に、インテリジェント構造モデルの基になっているスキーマには存在しないタイプ要素が含まれている場合、Intelligent Structure Discovery は後続の要素を処理しない。
ISD-2340	CSV、XML、または JSON サンプルファイルに基づくインテリジェント構造モデルを使用したマッピングの実行が Databricks 7.3 で失敗し、次のエラーが発生する。 ERROR Uncaught throwable from user code: java.lang.NoClassDefFoundError: com/informatica/adapters/parser/atlas/AtlanticDataFrameGenerator
ISD-2330	データプロセッサトランスフォーメーションを使用するマッピングで、出力ポートタイプがファイル名の場合、マッピングでメモリリークが発生する。
BDM-38480	Informatica をバージョン 10.2.2 からアップグレードした後、DB キューテーブルが使用できないため、マッピングが失敗する。この問題は、SQL Server でのみ発生します。
BDM-38320	データ統合サービスマシン上の一部のサードパーティ JAR ファイルにより、Blaze エンジンで実行されるマッピングが Blaze ジョブ監視に表示されない場合がある。
BDM-38144	Spark エンジンがアップデートストラテジマッピングを実行すると、マッピングに切り詰めが設定されていない場合でも、JDBC ターゲットに書き込むデータが切り詰められる。
BDM-38142	管理者レベルの権限を持っていない Developer tool ユーザーは、ランタイムアプリケーションまたはアプリケーションオブジェクトを表示できません。
BDM-37594	Administrator ツールのクラスタ設定作成インターフェースで、クラスタ設定の作成元となる Hadoop クラスタのバージョンの中に CDH6.1 が誤って表示される。Cloudera CDH 6.1 は、Informatica バージョン 10.5 ではサポートされていません。
BDM-37568	SQL データサービスを作成し、デプロイ済みの SQLDS コマンドを使用して SQL クエリのマッピングを生成しようとする、次のようなエラーメッセージが表示される。 コマンド[prepareMapping]がエラー[[SQLCMN_10034]で失敗しました: SQL データサービスに対する SQL の実行中に、SQL サービスモジュールで次のエラーが発生しました: [com.informatica.ds.sql.jdbcdrv.PreparedStatementImpl を com.informatica.ds.sql.jdbcdrv.StatementImpl にキャストできません]]

問題	説明
BDM-37537	Python トランスフォーメーションを使用したマッピングは、Databricks5.5 クラスターでは成功するが、バージョン 7.x クラスターでは失敗し、次のようなエラーが発生する: ステージの失敗が原因でジョブは強制終了されました: タスク<n> (ステージ<n.n>)が 4 回失敗しました。最近の失敗: タスク<n.n> (ステージ<n.n>)が失われました...
BDM-37300	ファイル名に特殊文字を使用すると、削除コマンドが失敗する。
BDM-36951	filemanager ユーティリティログに、「警告」および「情報」という不正なログトレースレベルが表示される。ログトレースレベルは、「警告」の場合は「嚴重」、「情報」の場合は「適当」と表示されます。
BDM-34122	正規表現関数の評価中にエラーが発生した場合、カラムのデフォルト値を考慮する代わりに、トランスフォーメーション評価エラーで行がスキップされる。

Data Engineering Streaming で解消された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IIS-5459	ストリーミングマッピングを実行しても、次の条件に該当する場合にキャッシュの更新が行われない。 <ul style="list-style-type: none"> - Hive データが Optimized Row Columnar (ORC) または Parquet ファイル形式で保存されている。 - キャッシュのリフレッシュ間隔が 0 に設定されている。

Data Engineering Quality の修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-28891	スケジュールされたジョブが、スケジュールされた時間にトリガーされない。

Data Privacy Management の修正された問題と実装された拡張要求 (10.5.1)

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
SATS-37493	オプションの「所有者」フィールドに値を追加せずに作成したセキュリティポリシーを開くことができない。
SATS-40382	「機密フィールド」ページからエクスポートする情報に、各分類ポリシーのインプレッション数が含まれていない。
SATS-40546	IBM DB2 for z/OS データストアの保護ジョブが、Test Data Management でのワークフローの実行中に失敗する。
SATS-40440	Azure SQL Database データストアの保護ジョブが、必要なセキュア JDBC パラメータがないため、Test Data Management で失敗する。 回避策: 次のプロパティを JDBC URL の末尾に追加して、ジョブを実行します: DataIntegrityLevel=accepted;CryptoProtocolVersion=TLSv1.2
SATS-40922	Enterprise Data Catalog との同期がスタックオーバーフローエラーで失敗する。
SATS-41284	Hortonworks 拡張機能が「機密フィールド」ページにオプションとして表示される。
SATS-41304	Hive データストアでのリンクサブジェクトスキャンが SSL 例外で失敗する。
SATS-41458	セキュリティポリシー「電子メールアクション」の「自分に割り当て」オプションが、LDAP ユーザーに対して期待どおりに動作しない。

実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
SATS-15190	Enterprise Data Catalog からインポートするリソースに、接続文字列とソース接続名の情報が含まれます。
SATS-41328	リモートエージェントによって実行されるジョブにタイムアウト値を設定できます。
SATS-41369	Enterprise Data Catalog からリソースをインポートすると、ビュー情報をインポートできます。

ドメインの修正された問題と実装された拡張要求（10.5.1）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-28779	Administrator ツールで、クラスタ設定を更新して新しいホスト名を追加してから、クラスタ設定を再度更新すると、[クラスタ設定の更新] ウィンドウに古いホスト名が正しく表示されない。
PLAT-26364	IPv6 対応マシンでホストされたドメインを使用している場合に、Informatica Administrator のヘルプアイコンをクリックすると、ホストのヘルプではなくローカルのヘルプが表示される。
BDM-37822	Analyst ツールを使用してオペレーティングシステムプロファイルを使用してフラットファイルをアップロードすると、ANSI または拡張 ASCII 文字セットでエンコードされた一部の文字が破損する可能性がある。

実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
PLAT-28488	MasterDBRefreshInterval カスタムプロパティのデフォルトの時間間隔が 30 秒に延び、マスタゲートウェイノードがドメインデータベースを更新するのに十分な時間が確保されます。

Enterprise Data Catalog の修正された問題と実装された拡張要求（10.5.1）

修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
EIC-55464	【検索プリフィルタ設定】 ページと 【検索結果】 ページでテーブルタイプフィルタ数が一致しない。
EIC-53333	Informatica ドメインが RHEL6.x にインストールされている場合、infacmd バックアップおよびリストアコマンドが失敗する。
EIC-52376	カスタム属性を編集すると、ページのロードに長い時間がかかる。
EIC-55573	一意キー推測プロファイリングが無効になっている場合、UkFkExecutor ジョブから PREDECESSOR_TASK_PARTIALLY_FINISHED イベントを受け取れないため、UkFkResultFetcher ジョブが応答を停止する。
EIC-56263	複合ドメインの検出とプロファイリングで有効になっている Microsoft SQL Server リソースのカスタムスケジュールを設定すると、Catalog Administrator はスケジュールされた時間にリソースを実行できず、LDM.log ファイルに次のエラーメッセージが表示される: Execution Resourcegmt CallbackHandler が java.lang.NullPointerException 例外で失敗しました

問題	説明
EIC-56485	アセットの変更時に電子メールを受信するように変更通知を設定した後、Informatica Administrator の電子メールサービスは通知を送信せず、次のエラーメッセージが表示される: find コマンド中の Executor エラー :: 原因 :: ソート操作が最大の 33554432 バイトを超える RAM を使用しています。インデックスを追加するか、より小さな制限を指定してください。このエラーは、MongoDB クエリがメモリの問題で失敗したときに発生します。
EIC-56477	リソース名が 100 文字を超えると、カタログデータのバックアップに失敗する。
EIC-56380	Teradata ODBC ドライバのバージョンを 16.20 にアップグレードすると、Teradata プロファイルが失敗し、次のエラーメッセージが表示される: SQL Error [FnName: Fetch Optimize - [Teradata][ODBC] (10470) Data conversion not supported.]
EIC-56142	JVM -DexcludePatterns="[\\].*","[.]*.*fileName.*" オプションを使用して、パーティション化された Parquet ファイルのデータ検出を有効にすると、Enterprise Data Catalog ツールは、Amazon S3、Azure Data Lake Store Gen2、および HDFS リソースのプロファイルリングメタデータを識別しない。
EIC-56173	ロジック、ルール、およびカラムを含むカスタムデータドメインを Analyst ツールから Enterprise Data Catalog ツールにインポートした後、データドメインを同じカラムに関連付けることができない。
EIC-55985	Enterprise Data Catalog Tableau プラグインが Tableau ワークブックに表示されない。ただし、プラグインはワークブックのビューまたはテーブル内に表示される。
EIC-56273	マッピングタスクに SQL コメント付きの Microsoft SQL オーバーライドクエリが含まれている場合、Enterprise Data Catalog ツールは、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) リソースのリネージュおよび影響の情報を表示しない。
EIC-57235	Amazon Redshift リソースおよび Sybase リソースが次のエラーメッセージで失敗する。 - Sybase の場合: テスト接続に失敗しました。MITI.MIRException: データベースへの接続(URL jdbc:sybase:Tds:INADPF2.informatica.com:5000 を使用)が失敗しました。必要な JDBC ドライバ 'com.sybase.jdbc4.jdbc.SybDriver' がありません。 - Amazon Redshift の場合: テスト接続に失敗しました。MITI.MIRException: データベースへの接続(URL jdbc:redshift:Tds:INADPF2.informatica.com:5000 を使用)が失敗しました。必要な JDBC ドライバ 'com.amazon.redshift.jdbc42.Driver' がありません。
EIC-55506	10.4.0.2 にアップグレードした後、Hive リソースに接続を割り当てようとすると、次のエラーが発生する: resourceTypeId HIVE で resourceType が見つかりません。
EIC-56274	Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) リソースは、ICS マッピングまたは ICS マッピングタスクにデータベース名を含む SQL クエリが含まれている場合に、ダミー接続を抽出する。
EIC-56153	メタデータスキャン後、Teradata リソースがビューカラムを表示しない。
EIC-56932	Google BigQuery リソースの場合、パーティション化されたテーブルのスキャンが次のエラーで失敗する: フィールドでパーティション化されたテーブルへのクエリは、レガシー SQL ではサポートされていません。
EIC-55908	任意のスキャナの ScannerDeployer.xml ファイルを解析できない場合、スキャナのデプロイに失敗しましたエラーが発生して、カタログサービスの開始に失敗する。
EIC-55889	Microsoft SQL Server パーサーは、Snowflake ビューで定義された複雑なビュークエリを解析できないため、リソーススキャンが NullPointerException エラーになる。
EIC-24895	[リソース] タブの Microsoft SQL Server リソースで、一部の権限を使用できない。

問題	説明
EIC-55588	パッケージフィルタが有効になっている場合、SAP HANA DB リソースはメインパッケージから計算ビューを一切抽出しない。
EIC-56716	SAP HANA DB リソースのテーブル名にスラッシュ文字が含まれている場合、そのテーブルに含まれているカラムの名前が抽出されない。
EIC-56825	Workday オブジェクトに同じソースとターゲットが含まれている場合、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) リソースは無限ループで実行される。
EIC-55989	Catalog Administrator では、デフォルトの権限を設定した後、アクセスフィルタが原因でリソースの作成に時間がかかる。
EIC-57153	カタログにメタデータをロードした後、JSON ファイルの階層が正しくない。
EIC-51210	Google Big Query リソースのパーティション化された大きなテーブルがカタログに取り込まれない。
EIC-10973	Microsoft Excel ファイルのメタデータのロードが次のエラーで失敗する: OutOfMemoryError: GC オーバーヘッド制限を超えました
EIC-25488	Enterprise Data Catalog で、10,000 文字を超えるビュースクリプトが切り詰められる。
MDX-20197	詳細スキャナの計算に含まれる式を検索できない。
EIC-55512	識別名のコモンネーム (CN) 値が異なるクラスタ証明書とクライアント証明書の証明書署名要求を生成できない。
EIC-55969	リソースの作成が失敗した場合、エラーログには失敗の原因を特定するのに十分な情報が含まれていない。
EIC-56828	SSL 対応クラスタで、識別名の組織単位 (OU) 値にカンマが含まれていると、カタログサービスを開始できない。
EIC-55815	複数のプロジェクトを持つ MicroStrategy リソースが、メタデータの抽出中に失敗する。
EIC-56155	core.Datasetuuid 属性がないため、Axon スキャナの SAP S/4 HANA フィールドの親名が空白になっている。
EIC-56115	リソースを複数回実行すると、Tableau リソースに設定したエンリッチメントが失われる。Catalog Administrator で Tableau オブジェクトを表示できない
EIC-56769	特定のデータセットで、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) スキャナの実行が失敗し、NullPointerException エラーが発生する。
EIC-55837	データドメインのプロパゲーションのリソースが次のエラーで失敗する: ArrayIndexOutOfBoundsException。
EIC-56171	データドメインの検出とプロファイリングのいずれかまたは両方で有効になっているリソースのスケジュールを設定すると、リソースはスケジュールされた時間に実行されず、NullPointerException で失敗する。
EIC-53663	データ所有者またはデータスチュワードをアセットの【概要】タブからアセットに割り当てた場合、Informatica Administrator の電子メールサービスで、アセットのエンリッチメントとコラボレーションの変更に関する通知が送信されない。

問題	説明
EIC-55591	【プロファイリング】 を使用してリソースを設定し、 【一意のキー推測】 オプションを無効にした場合、Catalog Administrator ツールは 【一意のキー推測】 オプションを 【有効】 と表示する。この問題は、 【ソースメタデータ】 オプションを無効にしてリソースを変更した後に発生します。
EIC-53459	-DexcludePatterns JVM オプションを使用してファイルをスキャンから除外し、Amazon S3 リソース内のすべてのファイルタイプからメタデータを抽出するように選択すると、Catalog Administrator ツールは、スキャンからファイルを除外する代わりに、リソース内のパーティション化された Parquet ファイルをスキャンする。
EIC-56366	Enterprise Data Catalog ツールで、クラシックの 【リネージュと影響】 ビューに Tableau リソースのリネージュと影響の情報が表示されない。
EIC-57140	プロファイルウェアハウス接続を選択すると、Informatica Data Quality リソースの作成が失敗する。この問題は、Enterprise Data Catalog ツールで SSL が有効になっておらず、Data Quality ドメインでは SSL が有効になっている場合に発生します。
EIC-56701	データドメインのプロパゲーションのスキナが次のエラーで失敗する: NumberFormatException。
EIC-57247	カラムのデータドメインが拒否状態または推測状態の場合、カラムの 【概要】 タブが応答を停止する。
EIC-56694	Informatica Data Quality からインポートしたスコアカードを削除し、Informatica Data Quality リソースを実行した場合、Enterprise Data Catalog ツールに削除したスコアカードが表示される。
EIC-57150	Business Glossary リソースのアセット名に NULL 値が含まれている場合、リソースは NullPointerException で失敗する。
EIC-55521	Analyst ツールで Snowflake プロファイルルールを作成し、Snowflake 以外の接続で Informatica Data Quality リソースを実行すると、Enterprise Data Catalog ツールはプロファイル結果、スコアカード、および値の頻度の情報を表示しない。
EIC-55363	【リネージュと影響】 タブのコンパクトビューで参照アセット名をクリックすると、Enterprise Data Catalog ツールは参照アセットの 【概要】 タブロードに失敗する。
EIC-55463	Catalog Administrator ツールで、 【監視】 タブの[更新]をクリックすると、実行中のジョブの順序が変わる。
EIC-56966	RHEL8.4 で、Informatica クラスタ検証ユーティリティが失敗する。
EIC-55031	SAP HANA リソースの一部の計算ビューが、選択した HANA パッケージから抽出されない。
EIC-56769	特定のデータセットで、Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) の標準スキナジョブおよび詳細スキナジョブが失敗し、NullPointerException エラーが発生する。
EIC-55813	無効な Unicode 文字を含むスキーマをスキャンすると、カスタム Java オプションを使用してそれを MITI コンポーネントに渡すことができない。
EIC-55689	Oracle Scanner アセットが、同じリソースの 10.2.2 バージョンと 10.4.1.3 バージョンの間の不一致をカウントする。

問題	説明
EIC-57355	10.5 にアップグレードした後、Snowflake リソースタイプが [廃止] に変更された。Informatica Axon リソースでは、Enterprise Data Catalog の [リソース] タブに、Snowflake リソースが表示されない。
EIC-55910	ChangeNotification 標準スキマジョブは、クラスがないことを示すエラーが発生して失敗する。
EIC-55803	マルチノードの Enterprise Data Catalog デプロイメントで migrateContents コマンドを実行すると、指定された設定では MRS に接続できませんでしたというエラーでコマンドが失敗する。
EIC-57202	Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) リソースのアセットの変更をフォローしても、電子メールサービスが通知を送信しない。
EIC-56271	リソースの表示権限を持たないユーザーが [リネージュと影響] ビューでリソース名をクリックすると、[リネージュと影響] ビューのロードに失敗する。
EIC-48486	パーティション化されたテーブルでプロファイルを実行すると、Google Big Query リソースのプロファイルジョブが失敗し、次のエラーメッセージが表示される: Error:[IDP_1004] Profiling exception occurred: java.lang.RuntimeException: java.util.concurrent.ExecutionException: com.informatica.sdk.dtm.ExecutionException: [EdtmExec_00007] The [QUERY] job failed with the following error: [Querying tables partitioned on a field is not supported in Legacy SQL: 1009712305595:test_bhushan.sales_txn_hdr.]

実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
EIC-25897	MicroStrategy スキャナプロジェクト内にメタデータオブジェクトを格納するフォルダを除外できます。
EIC-24882	証明書インポートユーティリティを使用して、Amazon S3 ルート証明書をインポートできます。
MDX-21944	SQL Server Integration Services スキャナでは、デフォルト値ファイルでグローバルスコープとパッケージレベルスコープを使用できます。

Enterprise Data Preparation の修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDL-18560	データを Hive テーブルにパブリッシュまたはアップロードすると、Hive リソーススキャナで一意のキー推測ジョブが無効になっている場合でも、一意のキー推論ジョブが内部で実行される。
IDL-17540	Parquet ファイルタイプで [パーティション検出を有効化] フラグが true に設定されている場合、ADLS スキャナは異なるパーティション ID のパーティションファイルをスキャンできない。

Informatica Analyst 修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
ANT-2190	Analyst ツールでテーブルデータオブジェクトをインポート中に接続を変更すると、 [新規テーブル] ウィンドウには、以前の接続名が引き続き表示される。

マッピングおよびワークフローの修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDQ-9877	ID 照合分析用に設定した一致トランスフォーメーションを使用したマッピングでは、アラビア語の単語を英語の同等の単語と照合できない場合がある。この問題は、組織の名前と説明的な用語で確認されています。
OCON-27817	Microsoft SQL Server で最大値が設定された nvarchar データ型を含むテーブルをインポートすると、nvarchar データ型の精度がデフォルト値ではなく 0 に設定される。
OCON-28267	yyyy-mm-dd 形式の日付と時刻のフィルタを使用する Microsoft SQL Server マッピングを作成すると、マッピングが失敗する。

PowerCenter の修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
CORE-9624	Sybase のソースまたはターゲットのカラム名が数字で始まる場合、PowerCenter リポジトリサービスは XML のインポートに失敗する。
CORE-9569	Kerberos 認証が有効になっている異なるドメインにフォルダがある場合、PowerCenter リポジトリサービスはフォルダの比較に失敗し、接続失敗エラーを表示する。
CORE-9551	式トランスフォーメーションで変数を設定すると、PowerCenter 統合サービスが予期せずシャットダウンすることがある。
CORE-9346	デプロイ操作の完了後、Workflow Manager からワークフローを開くことができない。
CORE-9258	Workflow Monitor が 1,000 を超えるスレッドを処理すると、アサートによって予期せずシャットダウンする。
CORE-9105	ドメインをアップグレードした後、スケジュール期間が 2 分未満にスケジュールされたワークフローは、断続的にスケジュール解除される。
CORE-7250	置換オプションを使用して XML ファイルをインポートしようとしても、PowerCenter リポジトリサービスはリポジトリテーブルから既存のエントリを削除しない。

Test Data Management 修正された問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
TDM-29527	ストレージ暗号化を使用して置換マスキングを実行すると、次のエラーが発生する: ORA-01480: STR バインド値に終了の NULL がありません。
TDM-25929	ilmcmd コマンドラインプログラムを実行して接続をエクスポートすると、暗号化されていない状態でパスワードが表示される。
TDM-26036	プロジェクトにエンティティ条件パラメータが含まれている場合、プロジェクトのインポートジョブが失敗する。

サードパーティ製品の修正済みの問題 (10.5.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCN-28204 OCN-28502 OCN-28449	Spark エンジンが Oracle ソースを使用した Sqoop マッピングを実行する場合、ソースデータベースへの非アクティブな Oracle 接続が閉じられない。この問題は、Spark エンジンが Cloudera CDP バージョン 6.3、Cloudera CDP バージョン 7.1.4、および Hortonworks HDP バージョン 3.1 で実行されている場合に発生します。 Cloudera チケット: 741723
OCN-27441	Azure SQL データベースに Microsoft SQL Server 接続を使用している場合に、Web サービスの論理データオブジェクト用にデータオブジェクトキャッシングを有効にすると、Web サービス要求が失敗する。

トランスフォーメーションに関する修正された問題（10.5.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BDM-37453	Blaze エンジンまたはデータ統合サービスがジョイナトランスフォーメーションを実行すると、データキャッシュのオーバーフローにより、ターゲット内のデータが重複する。

10.5.1 の既知の制限事項

この節では、10.5.1 で見つかった既知の制限事項を示します。

アプリケーションサービスの既知の問題（10.5.1）

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
MRS-2506	MRX_PDO ビューで、モデルリポジトリ内のフラットファイルが一覧表示されない。
MRS-2499	MRX_APPLICATION_STAT ビューで、APPLICATION_NAME カラムと PARENT_STAT_ID カラムに NULL 値が含まれている。
MRS-2498	MRX_VT_PDO ビューで、CONN_NAME カラムのいくつかの行に NULL 値が含まれている。
MRS-2495	MRX_MAP_SRCCNT ビューのいくつかのマッピングに、誤った値が含まれている。
MRS-2470	MRX_PDO ビューで、モデルリポジトリ内の物理データオブジェクトが一覧表示されない。

Data Engineering Integration の既知の問題 (10.5.1)

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
BDM-38699	DataProc クラスターの動的階層フィールドをフラット化するときにマッピングが失敗する場合があります。
BDM-38639	【詳細オプションを使用したマッピングの実行】 ダイアログボックスを使用して最適化されたビューでマッピングを実行する場合、マッピングが失敗する。
BDM-38638	最適化されたビューでルックアップマッピングのデータをプレビューできない。
BDM-38630	Hadoop 接続で、一時テーブルが次のプロパティで指定された形式に従って作成されない。 - infaspark.insparkcontext.hive.default.fileformat - infaspark.insparkcontext.hive.default.fileformat.managed
BDM-38590	Blaze エンジンで長時間実行されているマッピングが、委任トークンエラーで失敗する。
BDM-38525	100 万個の Hive テーブルを含むスキーマを参照すると、Developer tool に次のエラーが表示される。 HTTP Status 500 - Internal Server Error
BDM-37925	Spark エンジンが Kafka ターゲットの Avro スキーマの論理データ型を誤って処理し、マッピングが失敗する場合があります。
PLAT-28992	デプロイメントマネージャから電子メールサービスを削除しても、サービスが無効にならない。

Data Engineering Streaming の既知の問題 (10.5.1)

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5340	マッピングフローオプションを使用して Spark エンジンで動的マッピングを実行し、ソースを Kudu ターゲットに接続すると、マッピングが失敗する。
IIS-5296	ソータートランスフォーメーションを使用して Spark エンジンで Kudu ターゲットを持つストリーミングマッピングを実行すると、マッピングが失敗する。

Enterprise Data Catalog の既知の問題（10.5.1）

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
MDX-22184	Oracle Data Integrator スキャナは、Oracle ナレッジモジュールでのみ使用できる。
MDX-22942	Azure Data Factory で Azure データフローの詳細なリネージュを表示できない。
MDX-23850	異なるファイルパスに属する複数の Amazon S3 データセットから作成したレポートで、Power Query 処理が失敗する。以下に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> - DataSet1: edc-qa-bucket/DemoCSV/CSVSubFolder/100 Sales Records.csv - DataSet2: edc-qa-bucket/Custom/ScannersQA/CSV/1000 Sales Records.csv
MDX-22476	Azure Data Factory の DefaultValues パラメータが、セクションキーを階層的に処理しない。
MDX-24050	接続名に次の特殊文字が含まれている場合、Databricks ノートブックの詳細なリネージュを表示できない。 <ul style="list-style-type: none"> - コロン (:) - セミコロン (;) - 角括弧 ([])
MDX-23969	Databricks ノートブックリソースが%run <呼び出し先ノートブック>コマンドを使用して別の Databricks ノートブックリソースを呼び出す場合、Enterprise Data Catalog の検索結果ページのコマンドリンクでコマンドページが開かない。
EIC-56548	Teradata リソースの自動接続割り当てがデグレードしている。
EIC-57275	PowerCenter パラメータファイルのユーティリティログに、ファイルが見つかりません例外のスタックトレースが表示される。
EIC-57245	Microsoft Azure Data Lake Store リソースおよび Amazon S3 リソースのリネージュで、フォルダアセットタイプのデフォルトアイコンが表示される。
MDX-23693	アップグレード後に既存の詳細スキャナ設定を実行すると、詳細スキャナツールに処理情報が表示されない。 回避策: 次のディレクトリで処理情報を確認できます: \$<Informatica installation directory>/AdvScannersWorkspace/processings
EIC-57422	複数のリンクに接続を割り当てると、特定のリンクが誤って【自動割り当て接続】タブに移動される。
EIC-57352	非 SSL ドメインをカスタム SSL に移行した後、カタログサービスが次のエラーで失敗する: 原因: com.mongodb.MongoCommandException: コマンドがエラー 11 (UserNotFound) で失敗しました: 'ユーザーが見つかりませんでした'。 回避策: 非 SSL ドメインをカスタム SSL に移行した後、次の手順を実行します。 1. Informatica クラスタサービスを有効にします。 2. Informatica クラスタサービスを停止します。 3. Informatica クラスタサービスを有効にします。 4. カタログサービスを有効にします。
EIC-57025	SAP Business Objects リソースを実行すると、スキャナログに MITI エラーが含まれている。

問題	説明
EIC-56989	大量の Google Big Query リソースを実行すると、ステージングフェーズのパフォーマンスが低下する。
EIC-56956	SAP Business Objects リソースを実行すると、ステージングフェーズとメタデータロードフェーズのパフォーマンスが低下する。
EIC-57474	空の「大文字小文字の区別」オプションを選択すると、JDBC リソースの再スキャンが失敗する。
EIC-57394	INFA_TRUSTSTORE および INFA_TRUSTSTORE 環境変数を設定していない場合、infacmd ldm backupContents コマンドを使用したカタログバックアップが失敗する。表示されるエラーメッセージには、十分な情報が含まれていない。
EIC-57353	カスタム SSL 証明書を置き換えた場合、カタログのリストアが失敗する。 回避策: カスタム SSL 証明書を置き換えた後、Informatica クラスタサービスとカタログサービスを有効にします。
EIC-57375	バージョン 10.5.1 にアップグレードすると、Enterprise Data Catalog ツールに「データドメイングループの重複」が表示されなくなる。
EIC-57353	カスタム SSL 証明書を置き換えた後、infacmd ldm restoreContents コマンドが失敗する。 回避策: 1. 証明書を置き換えた後に、Informatica クラスタサービスとカタログサービスを有効にします。 2. infacmd ldm restoreContents コマンドを再実行します。
EIC-57308	データドメインの【概要】タブで、カスタムリソースのアセットのデータドメインを承認または拒否できない。
EIC-57274	カラムの類似性データの移行が失敗した場合、移行ログファイルにエラーメッセージまたは警告メッセージが表示されない。
EIC-57269	Enterprise Data Catalog ツールは、Amazon S3 Parquet ファイルの【システム属性】セクションに誤った URL を表示する。
EIC-57241	カタログサービスをアップグレードした後、Amazon S3 リソースのアセットが Enterprise Data Catalog ツールに表示されなくなる。
EIC-57185	Hadoop でない環境の大規模なデータセットでプロファイルを実行すると、プロファイリングジョブが失敗し、次のエラーメッセージが表示される: [ExecutionQueueTask]INFO com.infa.products.ldm.scanners.profilesScanner.queue.impl.SearchQueueExecutor- SearchQueueExecutor : FAILED2021-08-30 11:54:03,387[ExecutionQueueTask]ERROR com.infa.products.ldm.scanners.profilesScanner.queue.impl.SearchQueueExecutor- An error occurred during SearchQueue execution: java.util.concurrent.ExecutionException: java.lang.RuntimeException: java.net.SocketException: Connection reset
EIC-57134	カタログサービスをアップグレードしてインデックスを再作成すると、重複する外部キー制約がテーブルに追加される。

問題	説明
EIC-57511	バージョン 10.5 からバージョン 10.5.1 にアップグレードした後、UpgradeJobs ログの場所にすべてのリソースのログファイルが含まれていない。
EIC-57510	リソース名に 280 文字を超える文字が含まれている場合、LDM_Upgrade.log ファイルに次のエラーが表示される。 ERROR [pool-23-thread-1] - java.io.IOException: ディレクトリ'/data/Informatica/LDM1050/logs/node01/services/CatalogService/CSQEREPO/UpgradeJobs/ObjectSubscriberUpgradeModule/LONG_ESS_INTEGRATED_PAYMENT_SYSTEM_SQL_SERVER_DGD_EVENT_LOG_BILLING_IPS_RCC_GLSP3306_PROD_ESS_INTEGRATED_PAYMENT_SYSTEMS_SQLSERVER_DGD_EVENT_LOG_BILLING_IPS_BATCH_GLSP3306_1_PROD_GLSP3306_PROD_ESS_INTEGRATED_PAYMENT_SYSTEMS_SQLSERVER_DGD_EVENT_LOG_BILLING_IPS_BATCH_GLSP3306_1_PROD/255dcef7-cc92-4a89-9fb4-ca61d2274363/Re-Publish'を作成できませんでした この問題は、バージョン 10.5 からバージョン 10.5.1 にアップグレードしたときに発生します。
EIC-57336	Salesforce アセットの【概要】タブで、【データドメイン】、【NULL 重複なし 重複あり%】、【ソースデータ型】カラムを見ることができない。
EIC-57549	リソース名に 200 文字を超える文字が含まれている場合、そのリソースのログファイルをダウンロードできない。
EIC-57621	バージョン 10.4.1 からバージョン 10.5 にアップグレードした後、Enterprise Data Catalog ツールの【リソース内のアセット】ページに、Business Glossary の推奨事項が表示されない。
EIC-57623	管理者以外のユーザーが Enterprise Data Catalog ツールでアセットを検索すると、【検索結果】ページのロードに失敗する。
EIC-57625	リソースからアセットデータを Tableau Data Extract (TDE) ファイルにエクスポートすると、次のエラーメッセージが表示される: Error: Something went wrong. Check the logs for more details. "undefined"
MDX-23699	Azure Data Factory スキャナのパイプラインと関数のデフォルト値を使用できない。デフォルトパラメータはアクティビティにのみ使用できる。
MDX-23878	Databricks ノートブックリソースが別の Databricks ノートブックリソースを呼び出すと、ジョブは次のエラーで失敗する: 式 dbutils.notebook.run の解決に失敗しました
MDX-23967	差分ファイルから差分テーブルへのカラムレベルのリネージュを起動すると、Databrick ノートブックのリネージュが失敗する。
MDX-24043	Databricks ノートブックのデータベース接続キーを入力し、キーに等号「=」が含まれている場合、キー値の半分が【解決済みの MDREPO】入力フィールドに移動する。
MDX-24178	Databricks ノートブック SQL をスキャンするジョブに create コマンドが含まれている場合、ジョブは次のエラーで失敗する: スクリプトを解析できません
MDX-24161	Databricks ノートブックスキャナジョブは、非依存 MDREPO エントリの失敗が原因で失敗し、次のエラーが発生する: 適切なドライバが見つかりません

問題	説明
EIC-57495	Enterprise Data Catalog 10.5.1 HotFix をカスタム SSL 対応クラスタの 10.5、10.5.0.0.1、または 10.5.0.0.2 累積パッチに適用し、Informatica クラスタサービスを有効にした後、クライアント証明書がクラスタノードにコピーされない。 回避策: 次の手順を実行します。 1. infacmd ics shutdownCluster コマンドを使用して Informatica クラスタをシャットダウンします。 2. 次のコマンドを入力して、すべてのクラスタノードの既存の証明書を削除します: <code>rm -rf \$customdir/certs/*</code> 。\$customdir ディレクトリは、クラスタカスタムディレクトリです。 3. Informatica クラスタサービスをリサイクルします。
EIC-57675	Informatica クラスタサービスを有効にすると、ホストタイプの検証フェーズで予期せずハングする。 回避策: ドメインノードとクラスタノードの/tmp ディレクトリの内容を削除し、Informatica クラスタサービスをリサイクルします。
EIC-55684	CSV ファイルにオランダ語の文字が含まれている場合、FileSystem スキャナがカラム名を検出できない。リソースは次のメッセージで失敗します: ファイルのヘッダーが検出されません。

PowerCenter の既知の問題 (10.5.1)

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
OCON-28445	一括モードでマッピングを実行して Oracle データベースに対してデータを読み書きする場合、ユーザー名に@文字が含まれていると、マッピングが失敗する。

参照データ既知の問題 (10.5.1)

以下の表に 10.5.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
IDQ-10097	XML ファイルから PostgreSQL 参照データデータベースに多数の参照テーブルをインポートすると、インポート操作が応答なくなり、参照データが完全にはインポートされない場合がある。この問題は、アクセラレータパックから参照データコンテンツをインポートする場合にも影響します。

サードパーティ製品に関する既知の問題（10.5.1）

以下の表に、サードパーティの既知の問題を示します。

問題	説明
IDL-18576	トランザクション Hive テーブルの場合、Spark-SQL はトランザクションテーブルをサポートしていないため、Enterprise Data Preparation で Zeppelin による視覚化が失敗する。 回避策: クラスタの Hive で ACID プロパティを無効にするには、Hadoop 管理者チームに連絡してください。 Spark チケットの参照番号: SPARK-15348

累積的な既知の問題

この節では、前のリリースから引き継がれた既知の制限事項を示します。

Data Engineering Integration の既知の問題（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
BDM-36874	Spark エンジンが Cloudera CDP Public Cloud クラスタでマッピングを実行すると、Data Lake クラスタ上のディレクトリとの間で読み取りまたは書き込みを行った場合にマッピングが失敗する。 マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: SEVERE: [LDTM_4872] HDFS source directory [/BDM_Automation/targetData/BZIP/m_all_compression_write_sparkMode] is not found. Specify a valid directory and try again.
BDM-36873	Cloudera CDP Public Cloud クラスタでマッピングを実行すると、Data Lake クラスタ上の相対パスとの間で読み取りまたは書き込みを行った場合にマッピングが失敗する。 マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: UNK_66008 File [hdfs://ns1/user/<impersonation_user>/SparkRelativePathDir// _tmp_infa_8365285398800525369_HDFS_RelativeSourceTarget.out/ HDFS_RelativeSourceTarget.out/attempt_20210104065255_0000_m_000000_3] could not be opened because of the following error: [java.lang.IllegalArgumentException: Wrong FS: hdfs://ns1/user/<impersonation_user>/SparkRelativePathDir/ _tmp_infa_8365285398800525369_HDFS_RelativeSourceTarget.out/ HDFS_RelativeSourceTarget.out/attempt_20210104065255_0000_m_000000_3,
BDM-35764	Cloudera CDP Public Cloud クラスタで実行されているアプリケーションの集計ログを取得できない。
BDM-35089	Spark エンジンでルックアップトランスフォーメーションを含むマッピングが実行されているときに、Source_Rows と Target_Rows の数が誤って表示される場合がある。 回避策: Blaze エンジンでマッピングを実行します。

問題	説明
BDM-34065	<p>Cloudera で設定した計算クラスタからクラスタ設定をインポートして、関連する接続を作成しようとする、作成プロセスで Hive 接続の作成が失敗し、次のエラーが表示される。</p> <p>[EDR_1069] Failed to resolve the option [connectString] of connection [HIVE_cco_ac] because the associated cluster configuration [CCO_AC] does not contain the property [hive.metastore.uris].</p> <p>回避策:</p> <ul style="list-style-type: none"> - アーカイブファイルからのインポートオプションを使用してクラスタ構成を作成します。 - Hive 接続の場合、メタデータ接続文字列とデータアクセス接続文字列の JDBC 接続を修正して、計算クラスタを指すようにします。
BDM-33922	<p>Kerberos 対応ドメインで、次の条件に該当する場合に、Spark エンジンで偽装ユーザーを使用して実行されているマッピングが失敗する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - クラスタステージングディレクトリが暗号化ゾーンにある。 - 偽装ユーザーが Active Directory ユーザーのプロキシユーザーとして構成されている。 - プロキシユーザー、つまりマッピング偽装ユーザーが暗号化ゾーンの DECRYPT 特権を持つ。 - Active Directory ユーザーが、暗号化ゾーンの DECRYPT 特権を持たない。 - Hadoop ステージングユーザーが、マッピング偽装ユーザーに設定されている。 <p>回避策: 暗号化ゾーンの DECRYPT 特権を Active Directory ユーザーに付与するか、暗号化ゾーンの外部にあるクラスタステージングディレクトリを使用します。例えば、/tmp ディレクトリなどを使用します。</p>
BDM-33585	<p>Blaze エンジンで実行されているマッピングが HDFS の暗号化ゾーンに対して読み取りまたは書き込みを行うと、マッピングが失敗する。</p> <p>回避策: Blaze でマッピングを実行するユーザーが偽装ユーザーと同一となるように設定します。別のユーザーを使用するには、Blaze ユーザーに DECRYPT 特権を付与します。</p>

Data Engineering Streaming の既知の問題（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
IIS-5180	Cloudera CDP バージョン 7.2 でストリーミングマッピングを実行すると、 【モニタ】 の 【サマリ統計】 ビューにジョブの詳細が表示されない。
IIS-4973	Amazon EMR バージョン 5.29 セキュアクラスタで Kafka ソースと Amazon S3 ターゲットを使用してストリーミングマッピングを実行すると、Amazon S3 ターゲットファイルのロールオーバーがアクセスが拒否されましたというエラーで失敗する。

Data Privacy Management の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
SATS-16903	データストアの【自動同期カタログ】オプションを有効にすると、【接続文字列】と【スキーマオプション】のプロパティ値が削除される。
SATS-16114	Salesforce ソースでスキャンを実行する場合、スキャンが【行数の収集】ステップで失敗する。
SATS-14408	Microsoft SQL Server データストアを作成するときにインスタンスを入力すると、【接続のテスト】オプションが失敗する。 回避策: 【インスタンス】フィールドには値を入力しないでください。
SATS-14387	詳細をインポートして新しいデータストアを作成する場合、インポートファイルの【スキーマ/パス】カラムに追加した値が UI に表示されない。
SATS-14385	SAP データストアをスキャンすると、次の問題が発生する。 - データスキャンで機密フィールドが識別されない。 - メタデータまたはデータのスキャン後、リスクスコアがゼロに設定される。
SATS-14379	Amazon S3 データストアの場合、データスキャンでメタデータを実行すると、【分類評価ジョブ】が失敗する。
SATS-14323	Salesforce データストアの場合、スキャンを実行すると、リスクスコアとポリシーインプレッションの値がゼロに設定される。
SATS-14316	フランス語とドイツ語のインスタンスの場合、フィールドまたはファイル名に UÜääääçééíóóüü_All_Customers.csv などの拡張 ASCII コードが含まれていると、Secure@Source による機密フィールドまたは機密ファイルの判別ができない。
SATS-14210	タスクの表示、タスクの編集、エクスポートの特権を持つユーザーがサブジェクトレジストリの表示特権を持っていない場合、DSAR レポートをダウンロードして表示することができない。
SATS-14208	ユーザーが必要な DSAR 特権を持つ場合でも、【タスクの詳細】タブがフリーズしてエラーが表示される。
SATS-13062	リスクシミュレーションの管理機能に関するオンラインヘルプが存在しない。
SATS-12484	Secure@Source 5.0 および Protection 5.0 製品で、一部のメタデータを追加または削除するようにカタログメタデータ CSV ファイルを構成して CSV ファイルをインポートし、Secure@Source で追加または削除していないカタログメタデータのみを含む CSV ファイルを後でインポートした場合、Enterprise Data Catalog ではインポートされた最新の CSV ファイルに含まれるメタデータのみが保持される。 回避策: データストアのすべてのカタログメタデータを含む CSV ファイルを再インポートします。 影響を受ける製品: Secure@Source および Secure@Source Protection
SATS-12574	【サブジェクトレジストリの詳細】ページで、表示する権限のないデータストアをユーザーが表示できてしまう。 影響を受ける製品: Secure@Source

バグ	説明
SATS-12279	<p>Persistent Data Masking ジョブのログが、Secure@Source UI で使用できない。ジョブには次のエラーメッセージが表示される: ID<ID 番号>のジョブが TDM で失敗しました</p> <p>回避策: 次のディレクトリに移動します: \$INFA_HOME/TDM/logs/jobLogs メッセージの中の該当するジョブ ID のジョブログファイルを見つけ、ログを表示します。</p> <p>影響を受ける製品: Secure@Source Protection</p>
SATS-7533	<p>データ統合サービスの名前が DIS または Data_Integration_Service でない場合に、Persistent Data Masking ジョブが失敗する。</p> <p>回避策: データ統合サービスの名前を DIS または Data_Integration_Service に変更します。データ統合サービスの名前を変更できない場合は、次の回避策の手順を実行して、管理ツールでサービスの名前を変更してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 次のディレクトリにある Persistent Data Masking XML ファイルに移動します: \$INFA_HOME/SecureAtSourceService/Protection/ <ul style="list-style-type: none"> Persistent Data Masking - ビッグデータおよび暗号化拡張機能の場合は、com.infa.sats.protection.pdm.bde.xml ファイルを編集します。 Persistent Data Masking - リモートドメイン拡張の場合は、com.infa.sats.protection.pdm.relational.xml ファイルを編集します。 XML ファイルで、[DataIntegrationServiceName] プロパティのデフォルト値を、次のように DIS に変更します: <property name="DataIntegrationServiceName" defaultValue="DIS"/> </Preferences> <p>影響を受ける製品: Secure@Source Protection</p>

Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
EIC-26492	HDFS リソースで java.lang.UnsupportedOperationException エラーが発生して、Parquet ファイルのメタデータの取得が失敗する。
EIC-26281	リソースとデータベースで同じ名前を共有している場合、Oracle リソースのカatalog サービスが次のエラーで失敗する: java.lang.IllegalStateException
EIC-26187	<p>スライダを使用してビューを展開すると、[リネージュと影響] ビューにすべての中間アセットが表示されないことがある。</p> <p>回避策: 間接リンクにカーソルを合わせると表示されるプラス記号をクリックします。</p>
EIC-26182	サンプリングサイズが 30 件を超すメッセージの場合、Apache Kafka リソースがスキーマを決定するまでに 26 秒かかる。
EIC-25995	ストリーミングマッピングに関連した階層型 JSON メッセージを含むトピックからメタデータを抽出すると、Apache Kafka リソースのカラムレベルのリネージュが破損する。
EIC-25994	ストリーミングマッピングに関連した階層型 XML メッセージを含むトピックからメタデータを抽出すると、Apache Kafka リソースのカラムレベルのリネージュが破損する。
EIC-25837	Qlik Sense データソースのカラム名にスラッシュ (/) が含まれている場合、Qlik Sense リソースに誤ったリネージュが表示される。

バグ	説明
EIC-24531	Informatica Administrator を使用してカタログサービスを停止した後にも、リソースが引き続きアクティブ状態となる。 回避策: 必要な YARN アプリケーションを停止します。
EIC-22979	Informatica Data Quality リソースの場合、Enterprise Data Catalog で参照データベースに関連付けられたスキーマのカラムが表示されない。
EIC-20981	ソーステーブル名またはカラム名に特殊文字が含まれている場合、Spark エンジンでプロファイルの実行が失敗する。
EIC-8187	Catalog Administrator の 1 つのリソースに対して読み取りおよび書き込み権限を持つユーザーを設定すると、Enterprise Data Catalog のユーザー検索ページには 1 つのカウントではなく、合計リソース数が表示される。
EIC-8171	Informatica Axon リソースを削除すると、Enterprise Data Catalog では、アセットに割り当てられているカスタム属性がカタログから削除されない。
EIC-8127	アンダースコア (_) を含むアセット名を検索すると、検索結果ページは結果を返さない。
EIC-7622	カスタムメタデータリソースは、ビジネスインテリジェンスメタデータソースの接続パラメータを抽出しない。
EIC-7583	relationships REST API は、同じクエリで異なる levelCount の詳細を返す。
EIC-7406	リソースに使用される再利用可能な構成で誤った詳細を修正しても、その変更はリソースに反映されない。
EIC-7405	整数のカスタム属性では、スライダフィルタを使用して負の値を選択できない。 回避策: 範囲に基づくフィルタを許可するようカスタム属性を設定します。
EIC-3288	データソース内のカラムにデータが含まれていない場合、類似性検出システムリソースがカラム名に基づいてカラムを検出しない。
EIC-19237	シノニムを検索した場合、カタログに誤った結果が表示される。
EIC-18905	HDFS クラスタでイレージャーコーディングを有効にしている場合、カタログサービスが開始しない。
EIC-1837	リレーション図にシノニムが表示されない。
EIC-1835	シノニムの [アセットの詳細] ビューでは、[次を含む] パネルに、カラムだけでなく、カラムとともにソース修飾子とマッピングアセットが表示される。
EIC-15657	Enterprise Data Catalog で、REST API を使用してユニバーサル接続フレームワーク (UCF) リソースを作成できる。しかし、このリソースを編集できない。 回避策: UCF ライセンスについてグローバルカスタマサポートにお問い合わせください。
EIC-14761	Enterprise Data Catalog でシノニムアセットの [変更概要] に正しくない通知メッセージが表示されることがある。
EIC-14746	ユーザーがストアードプロシージャのビジネスタイトルの関連付けまたは削除を行ったときに、Enterprise Data Catalog が通知メッセージを送信しない。この問題は、ストアードプロシージャアセットのエンリッチメント変更をフォローしている場合に発生する。

バグ	説明
EIC-14668	Catalog Administrator で、リソースの作成中にリソース内のすべてのアセットに関係者の値をプロパゲートすると、[リレーション] タブにアセットの正しくない情報が表示される。
EIC-14590	Catalog Administrator で、[管理] メニューに【再利用可能な設定】オプションが表示されない。この問題は、Microsoft Internet Explorer バージョン 11.1446 を使用している場合にのみ発生する。
EIC-14452	Enterprise Data Catalog で、ユーザー名に漢字が含まれている場合に、ユーザーがアセットに関するレビューの提供、質問、または質問への回答ができない。
EIC-14429	アセットのビジネスタイトルを更新した後も、Enterprise Data Catalog に以前に割り当てたビジネスタイトルが表示されることがある。
EIC-14406	Enterprise Data Catalog で、検索結果ページにアセットのパスが表示されない。この問題は、検索ボックスでキーワード「column contains」に続けてアセット名を指定してコラムアセットを検索した場合に発生する。
EIC-14374	アセットの説明を削除すると、Enterprise Data Catalog に正しくない通知メッセージが表示される。
EIC-14183	【フォローされたアセット】 ページの【リソース名】 フィルタオプションが想定どおりに機能しない。
EIC-14140	アセットのコラボレーションの変更をフォローした場合に、Enterprise Data Catalog が通知メッセージを送信しないことがある。
EIC-14127	【通知】 ページの【アセット名】 フィールドで、アセット名の後にパーセント記号 (%) を入力すると、Enterprise Data Catalog が予期せず停止する。
EIC-13718	【リレーション】 タブのフィルタが想定どおりに機能しない。
EIC-13708	Enterprise Data Catalog が、Google BigQuery ソースとの無効なデータマッピングを含む Informatica Intelligent Cloud Services (IICS) メタデータソースからメタデータまたはリネージュ情報を抽出しない。Google BigQuery と IICS の間の無効なマッピングは、IICS が Google BigQuery の numeric データ型をサポートしていないことが原因である。
EIC-13614	質問を削除すると、Enterprise Data Catalog に正しくない通知メッセージが表示される。
EIC-13577	リソースとアセットにデータ所有者を割り当てると、データ所有者間でユーザーロールと特権の競合が発生する。
EIC-13418	リソースのページ操作をキャンセルできない。
EIC-13285 および EIC-13181	Enterprise Data Catalog で、ARRAY、UNNEST、CODE_POINTS_TO_BYTES、RANK、GROUP EACH BY、および CODE_POINTS_TO_STRING などの、高度な Google BigQuery の関数と構文を含むビューのリネージュが表示されない。
EIC-13271	次の条件が当てはまる場合に、Google BigQuery テーブルで作成されたビューのリネージュを表示できない。 1. Google BigQuery プロジェクトでテーブルを作成し、そのテーブルのリソースを作成する。 2. 別の Google BigQuery プロジェクトでテーブルのビューを作成し、そのビューのリソースを作成する。 3. 両方のリソースを実行する。 4. ビューのリネージュを生成する。

バグ	説明
EIC-13164	フォローしているアセットに CSV ファイルが追加されたときに、[通知] ページに通知メッセージが表示されない。
EIC-13142	アセット名に漢字または UTF-8 文字が含まれていると、アセットに関係者を割り当てられない。
EIC-13114	カラムレベルでリネージュを表示するためにドリルダウンすると、シノニムアセットのリネージュ図が予期せずハングする。
EIC-13002	ビジネス用語集リソースから関連付けられたビジネス用語集を削除しても、Enterprise Data Catalog の検索結果から関連付けられたビジネス用語集の用語が削除されない。この問題は、Business Glossary と Axon のリソースタイプで発生する。
EIC-12990	名前に特殊文字が含まれているアセットに変更を加えた場合に、Enterprise Data Catalog が通知メッセージを送信しない。
EIC-12985	Microsoft Internet Explorer バージョン 11.1446 で、Catalog Administrator と Enterprise Data Catalog が予期せず停止する。この問題は、Catalog Administrator でカスタム属性を作成し、Enterprise Data Catalog でアセットにカスタム属性値を割り当てると発生する。
EIC-11572	Workday リソースタイプを使用してカタログに抽出されたいくつかのデータソースとレポートを検索すると、Enterprise Data Catalog の検索結果にアセットが表示されない。 回避策: Enterprise Data Catalog で検索を実行するときに、検索文字列を二重引用符 (" ") で囲みます。

マッピングおよびワークフローの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

バグ	説明
IDQ-9850	<p>データ品質トランスフォーメーションを含んだマッピングを Databricks Spark で実行すると、データ統合サービスでエラーが発生する。</p> <p>回避策: データ統合サービスで次のカスタムプロパティを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>ExecutionContextOptions.databricks.enable.infa.libs.autoinstall</code>。Informatica ライブラリをクラスタにインストールします。プロパティを true に設定します。 ライブラリインストーラは、クラスタで最初にマッピングを実行するときに実行されます。単一のマッピングを実行してインストーラをアクティブ化します。 - <code>ExecutionContextOptions.AV_DATABRICKS_DATA_LOCATION</code>。アドレスバリデータトランスフォーメーションが読み取るアドレス参照データファイルの場所を特定します。 - <code>ExecutionContextOptions.DATABRICKS_POPULATION_FILE_LOCATION</code>。ID 分析用にトランスフォーメーションを設定するときに一致トランスフォーメーションが読み取る ID ポピュレーションデータファイルの場所を指定します。 <p>設定する場所は、クラスタノード上のデータ統合サービスが読み取り可能な場所である必要があります。例えば、Databricks ファイルシステムでの場所は次のように設定します。</p> <p>dbfs/av</p> <p>dbfs/population</p>

プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
IDE-4509	プロファイル結果をデフォルトディレクトリ以外のディレクトリにエクスポートすると、エクスポートされた Excel シートの値カラムが空になる。

サードパーティ製品に関する既知の問題（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
BDM-34608 BDM-34615	Spark エンジンが ESP 非対応の Hadoop クラスタで Hive WASBS ソースとフラットファイルターゲットを使用してマッピングを実行すると、想定される偽装ユーザー以外のユーザー用に個別のステージングディレクトリが作成される。 ESP 非対応の HDInsight 4.0 クラスタ用の回避策: クラスタで次のプロパティを設定します。 - 「Hive ユーザーではなくエンドユーザーとして実行」(doAs) を TRUE に設定します。 - hive.metastore.execute.setugi を有効にします。 ESP 対応の HDInsight 4.0 クラスタ用の回避策: 「Hive ユーザーではなくエンドユーザーとして実行」(doAs) を FALSE に設定します。 Microsoft チケット番号: 120072723000878
BDM-34066	Cloudera CDH 計算クラスタ設定をクラスタから直接インポートすると、クラスタ設定に hive-site.xml ファイルが含まれない。 回避策: Hadoop クラスタからすべての *-site.xml ファイルを .zip ファイルとしてダウンロードし、アーカイブファイルから計算クラスタ設定をインポートします。 Cloudera チケット: 697586
BDM-33828	Spark エンジンが Cloudera CDP クラスタでマッピングを実行すると、次の SPARK_1003 エラーでマッピングが失敗する。 MetaException (メッセージ: 権限が拒否されました: ユーザー [偽装ユーザー] には [default] に対する [SELECT] 特権がありません) 回避策: Ranger で、Spark クエリを実行するすべてのユーザーのデフォルトデータベースに SELECT 特権を追加します。 Cloudera チケット: CDPD-12622 詳細については、 Cloudera 7.1.1 Release Notes を参照してください。
BDM-31657	Spark エンジンが Hive Warehouse コネクタを使用して Hive ターゲットに書き込むマッピングを実行する場合、ターゲットのカラム名に特殊文字が含まれていると、マッピングが失敗する。 マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: java.lang.IllegalArgumentException: Missing required char ':' at 'struct<<table name>>' Cloudera チケット: 751777
BDM-28598	同等の精度と位取りで設定されている 10 進型ポートで Spark エンジンがゼロの入力値を処理するときに、エンジンがその値をデータオーバーフローとして扱い、Hortonworks HDP 3.1 クラスタで戻り値が NULL になる。 Cloudera チケットの参照番号: 635063

問題	説明
BDM-25513	Spark エンジンで実行される、Hive ACID ソース/ターゲットテーブルを使用するマッピングがある場合、サマリ統計ビューに mapping job のスループット統計がまったく反映されない。 Cloudera チケットの参照番号: 00225986
BDM-23104	Hadoop ディストリビューションが MapR のときに、Spark エンジンがバケット化された Hive ターゲットにデータを書き込めない。 MapR の事例番号: 00074338
BDM-4674	Hive ターゲットに複数のプライマリキーがある場合、アップデートストラテジトランスフォーメーションのマッピングが実行時に失敗する。 Apache Hive チケットの参照番号: HIVE-19911
BDM-37988	Blaze エンジンが MapR 6.1 クラスタでマッピングを実行している場合、Hive に保存された Avro 形式のファイルからの読み取りまたは書き込みを行うと、マッピングが失敗する。 マッピングが失敗して、次のエラーが表示されます: [GRIDDTM_1016] The Integration Service failed to execute grid mapping with following error [An internal exception occurred with message: java.lang.RuntimeException: Failure to execute Query <query> on the hive Server.] MapR チケット番号: 00101221
BDM-34066	Cloudera から直接クラスタ設定をインポートして関連する接続を作成しようとする、インポートウィザードでの Hive 接続の作成が失敗し、次のエラーが表示される: [EDR_1069]関連するクラスタ構成[CCC_AC]にプロパティ[hive, metastore, uris]が含まれない、[HIVE_cco_ac]接続のオプション[connectstring]を解決できませんでした。 回避策: 1. アーカイブファイルから設定をインポートして、クラスタ設定を作成します。 2. Hive 接続を編集して、計算クラスタを指すようにメタデータ接続文字列とデータアクセス接続文字列を修正します。 Cloudera チケット番号: OPSAPS-57696

10.5.1 に統合された緊急バグ修正

Informatica では、以前のリリースの緊急修正（EBF）をバージョン 10.5.1 に統合しました。これらの EBF では、以前のリリースで見つかった問題に対する修正を提供しています。

バージョン 10.5.1 に統合された EBF の一覧については、次の Informatica Knowledge Base の記事を参照してください:

https://knowledge.informatica.com/s/article/FAQ-What-are-the-Emergency-Bug-Fixes-EBFs-merged-into-Informatica-10-5-1?language=en_US

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルカスタマサポートにお問い合わせいただく場合は、電話または Informatica Network からご連絡ください。

それぞれの地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号については、Informatica Web サイト

(<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>)
を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースについては、<https://network.informatica.com> の
eSupport オプションをご確認ください。